

サーキット・ライダー 2002年 1月号

馬年、飛躍でも落馬でも

新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え。主に向かって歌い、御名をたたえよ。日から日へ、御救いの良い知らせを告げよ。国々に主の栄光を語り伝えよ。諸国の民にその驚くべき御業を。

詩篇 96：1－3.

明けましておめでとうございます。本年もよろしく願い致します。昨年は3分の2まで淡々と進んでいましたが、最後の4ヶ月は悲しみ、怒り、憤り、空虚さに日々を過ごし、改めて人生、信仰を考えられた方も多かったことと思います。勿論、何事も無かったように生きている方も世の中沢山いますが。また社会だけでなく、個人的にも悩みを抱え歩んだ方もあれば喜びの内に1年を終えた方もいられるでしょう。迎えた2002年はいったいどのような年になるのでしょうか。

私は以前にも書きましたが「時は神の恵み」とつくづく感じています。何故なら、昨年たとえどのような日々を送られたとしても、新しい年は平等に与えられるからです。人間は弱者です。一般的に喜びや嬉しい事はそれほど長続きしないのですが、何か悩みごとや問題などを抱えているといつまでもそれを引きずってしまう傾向にあるようです。なかなか自分で気分転換したり、視点を変えて問題に対処したり、悩むのを止めるということができません。皆さんはいかがでしょう。悩みや苦しみを背負っている時に、自分で気分を新たにして前向きに歩んで行くことができるのでしょうか。なかなかできないのではないのでしょうか。信仰があっても難しい。しかし、時が変わる、自分を取り囲んでいる状況、環境が変わることによって、再スタートしたり、一步前進できる。多少なりとも「さあ、頑張ろう。」という気になる。

話はちょっと逸れますが、アメリカ生活をしていると干支を忘れてしまいます。年末近くなった頃、故郷（くに）の両親に電話して挨拶をした折、私が「今年は色々あったけど、来年はどうなることか。飛躍の年になるか、ただいたずらに年を重ねるだけになるか。」というようなことを言ったところ、母が「飛躍の年になるよ。だって馬年だから。」と言われ、「ああそうか2002年は馬年か、、、」と悟ったほどです。飛躍か落馬か分かりませんが、教会、日本語ミニストリー、また自分自身のおきましては色々やる事、やらなければならぬ事が見えてきたような気がします。そこでこの場をお借りして日本語ミニストリーにおける抱負を述べさせていただきます。

この地にいるが故の宿命ですが、日本語教会や日本語ミニストリーのメンバーは毎年のように入れ替わります。ですから色々な事をその都度、顔ぶれに合わせて変更したり、組み立てなおしたりします。が、ここ数年、数は少ないながら長期滞在、永住の方が増え、礼拝や教会プログラムの計画が立てやすくなってきました。ですから今年は以下のことを実行して行きたいと願っています。

1. 伝道。救いを求めている人たちに手を差し伸べる。教会としては当たり前ですが、日本語ミニストリーの伝道の働きという意味で、もっと活発にするということです。
2. Jr. 教会（教会学校）の再生。今年はここ数年レギュラーでできなかった教会学校を再生、聖書の勉強や夏のキャンプ、ファミリーキャンプなどのプログラムをする。
3. 大人の聖書の学びを増やす。聖研は現在、第三週、金曜日の昼間だけですが、平日の昼間は働いている方が出られません。ですから、夜にも聖研を持てればと願っています。
4. 祈祷会。前からリクエストがありましたが、自由に来て祈れる時を持つ。その為に教会を開けておく。
5. 交わり。礼拝後だけでなく、もっと交わりの場を増やす。食事会をしたり、特別なプログラム、修養会、特別講演を組んだり、或いはただ自由に話し合うだけでも良いかもしれません。
6. 他教会、グループとの交わり。日本語ミニストリーとしてもっとアメリカ人の教会を始めインド人の教会や色々な方々と交わりを持つ。また奉仕活動、ホームレスデナー、病院訪問、ボランティア活動を通してコミュニティーにも積極的に関る。

アメリカ人教会の牧師としてお仕えしながらですので、何かと時間的な制約を受けてしまいますが、皆さんのお祈りと協力、主の御心によって必ずこれらのことができると信じています。

この他、個人的に今年は私の専門である「宗教と芸術」をより深く勉強したり、夏にメソジストのキャンプ場で高校生以上を対象にデッサンと油絵を教えるキャンプをする計画を立てています。飛躍となるか落馬となるか。まあ仮に落馬してもまた馬に乗ってやりなおすのみ。あくまで前進するのみです。皆様の念頭の誓いは如何なるものでしょうか。2002年、馬年。神の祝福が皆様の上にも豊かにありますように。

吉松 純